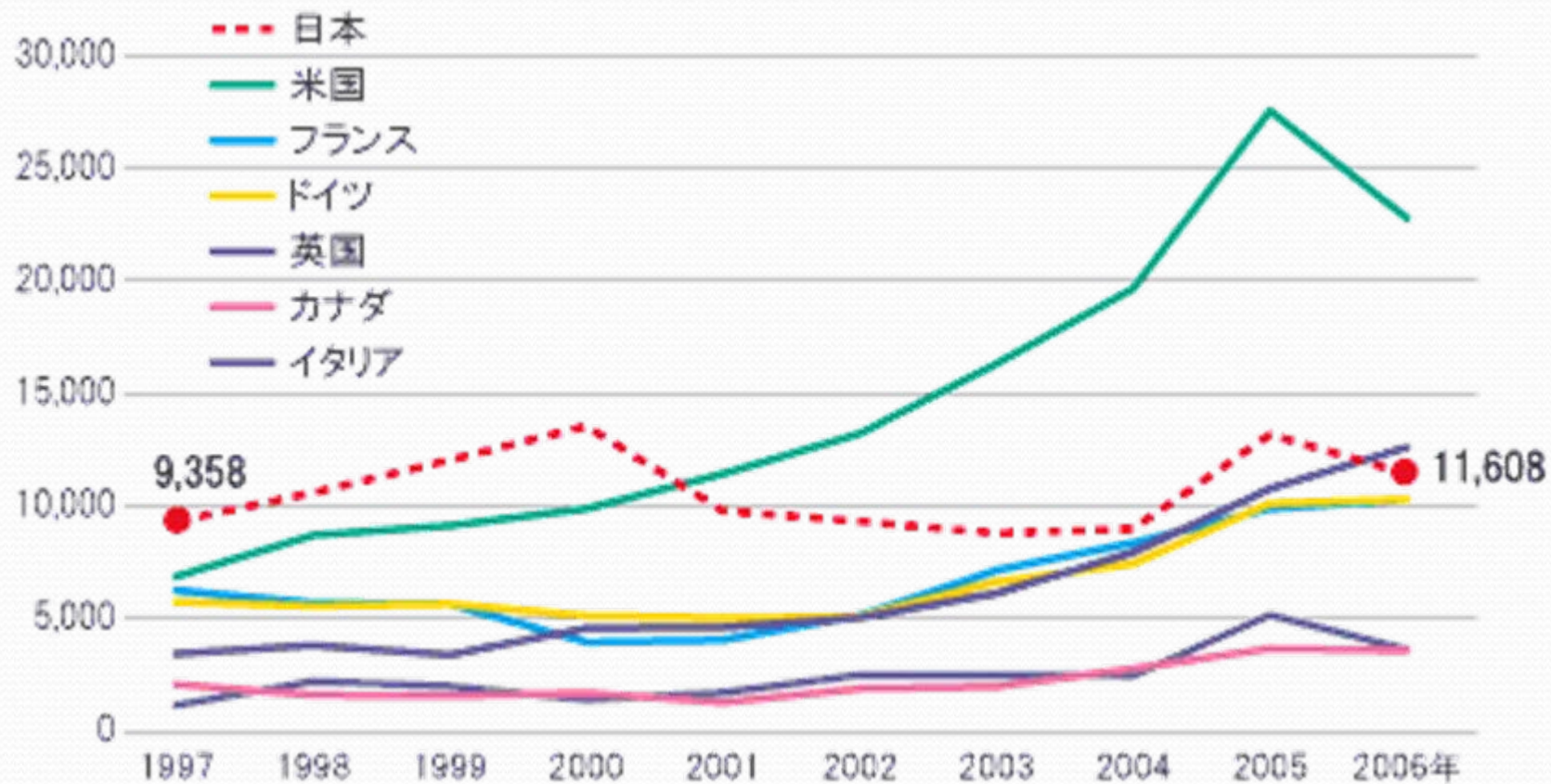


# 提案 ODA事業の評価と NGOの参画

ODA政策協議会議題 2008年3月6日  
(NPO)21世紀協会 池田晶子

# 減り続けるODA予算

(単位:100万ドル)



国際協力新聞2007

# ODAの問題

- 次の点に注目してみました
- ① 質の向上が求められる（住民への影響、発展性、効率が十分考察されていない）
- ② 透明性が低い
- ③ 国民からも裨益住民からもかけ離れた存在である

# ODAと市民

外務省: 市民参加 - Windows Internet Explorer

http://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/shimin/index.html

ファイル(E) 編集(E) 表示(V) お気に入り(A) ツール(T) Google

検索

★ 外務省: 市民参加

外務省

The Ministry of Foreign Affairs of Japan

日本語 | English | リンクページ

外務省案内 | 渡航関連情報 | 各国・地域情勢 | 外交政策 | ODA | 会談・訪問 | 報道・広報 | キッズ外務省 | 資料・公開

[トップページ](#) > [外交政策](#) > [ODA](#)

ODA

[ODA入門](#) | [ODAちょっといい話](#) | [国際協力プラザ](#) | [開発教育・国際理解教育](#) | [援助政策全般](#) | [分野別開発政策](#) | [国別・地域別データ](#) | [ODA改革](#) | [国際的動向](#)  
[ご案内](#) | [採用情報](#)

市民参加

ただのイベント

- ▶ [ODA民間モニター](#)
- ▶ [ODAタウンミーティング](#)
- ▶ [ODA出前講座](#)
- ▶ [国際協力とNGO](#)

# 外務省・NGO共同評価

- 1997年～2002年の間5回実施  
(バングラデシュ、カンボジア、ラオス、ヴェトナム、フィリピン)
- 相互学習の意味合いが強い
- NGO事業補助金制度を受けた事業の評価である→NGOの実施しているプロジェクトに対する評価にとどまっている
- 単発的
- 2002年以降実績なし

「勉強会」の域を出なかった

# 提案

- 任意のODA事業の評価にNGOが携わる**制度**を作る

事業の  
効率アッ  
プ

透明性  
を高める

国民との  
距離を  
縮める

# 事前・中間・事後評価

- すべての段階において評価を受け入れる
- 評価結果の勧告を前向きに受け入れる
- とくに、事前評価の場合、事業の中止を含め、勇気を持って勧告を受け止める
- (ODAの評価の仕事をNGOに取らせよ、と言っているわけではない)

# 共同評価も視野に入れて



# NGOの比較優位

- 人間開発分野が得意
- 現地につながりが深い
- もっとも住民に近い「開発のプロ」
- 住民の目から見たプロジェクトの影響を計れる
- 事業から取り残された弱者を発掘できる
- 限られたリソースを使い回すのが得意
- 縦断的、横断的見方ができる
- 役所の「壁」がない

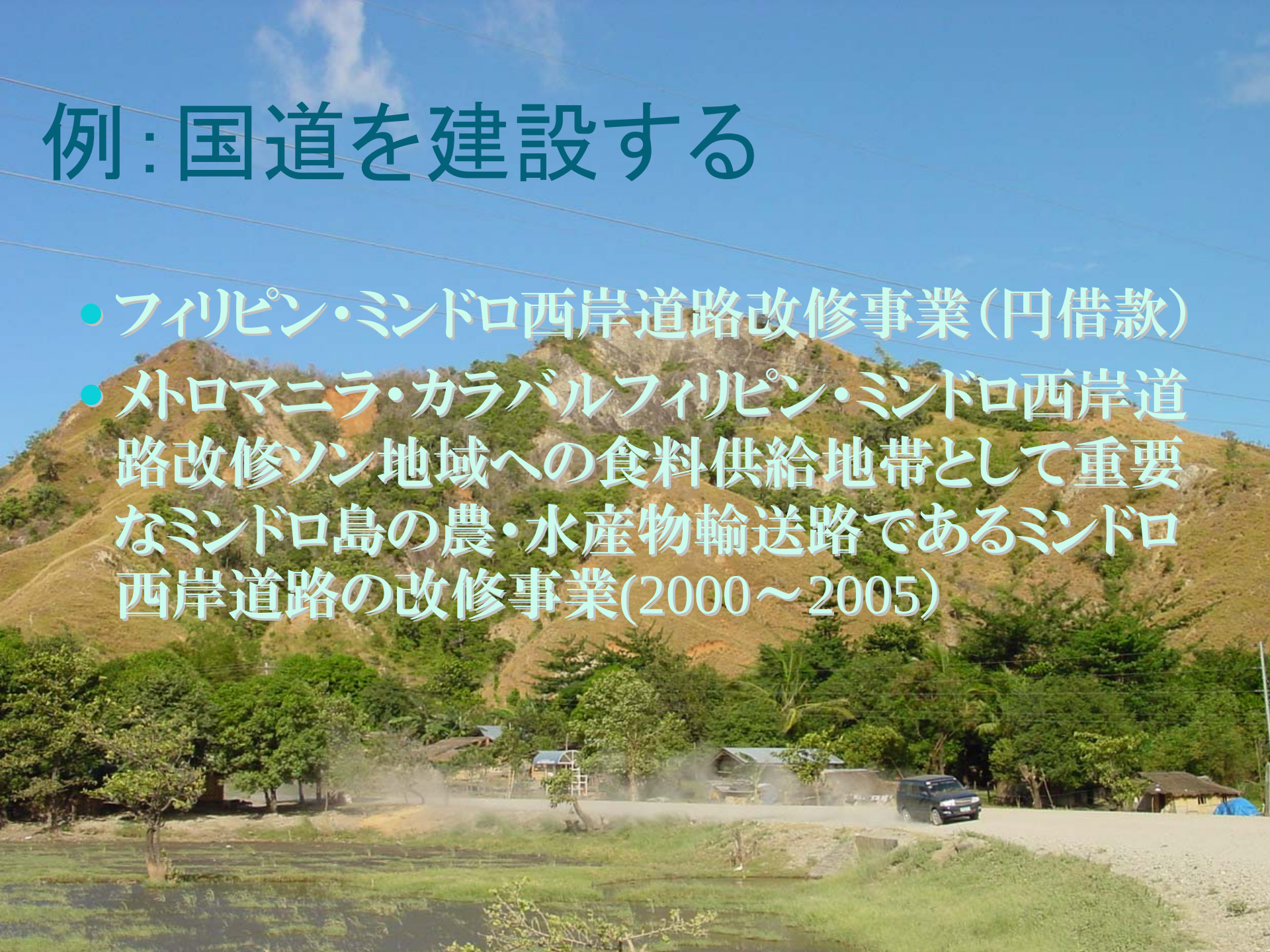
# なぜ事業評価か？

- 政策評価と違い、具体性があり、国民にODAの使い道を示しやすい
- 事業が政策と一貫性を持たないケースが目立つ
- 国民がもっとも嫌っているのは事業の無駄遣い、「使えないODA」
- これまで事業に対し、積極的外部評価を行っていない(予算等の制約か？)

政策評価が基本である  
ことは言うまでもない

# 例：国道を建設する

- フィリピン・ミンドロ西岸道路改修事業(円借款)
- メロマニラ・カラバルフィリピン・ミンドロ西岸道路改修  
ソン地域への食料供給地帯として重要なミンドロ島の農・水産物輸送路であるミンドロ西岸道路の改修事業(2000～2005)



# 現地から見た問題点

- 政治的に利用された (知事の選挙の道具になった)



# 現地から見た問題点

- 政治的に利用された(知事の選挙の道具になった)
- プロジェクトの範囲が道路建設のみであったため、雨期の水害対策が考慮されていなかった
- 道路は水没し、コンクリートの下の土砂が雨により流される→道路は陥没

たとえば・・・こうすればよかったのに・・・

- 植林プロジェクトの組み合わせ
- 簡単な道路補修を沿線住民にさせる制度作り
- 日本のNGOが住民対象の評価を行うことで、日本のプレゼンスを示すことができた

# ODA評価 = 提案内容

- 事前、中間、事後のすべての段階において積極的にNGOの評価を受け入れる
- 手始めに年間10件ほどNGOが選んだ案件についてNGOが外部専門家として参加
- 評価後、NGOは積極的に現地、日本両側の市民にODAをアピール→顔の見える援助
- 評価後、ODA事業は提言を受け入れ、改善に努める→国民へのアピール

# お金がない？使いたくない？

- もちろん、いつでも「お金はない」
- お金をかけても外部評価を実施することで、ODA実施側も「聞く耳を持っている」ことを示す
- 評価が期待通りの成果を上げたら国民のODAに対する理解を得られる
- 理解が得られればODAの増額につながる
- 問題は「お金を使う値打ちがあるかどうか」だ

ODAも立場の違うNGOの厳しい目にさらされることで切磋琢磨の機会を得、より効果的なものに変身



ODAの透明性の確保

ODAと住民/国民とODAの距離を縮める

ODAの効率性/透明性を高める

めざすもの



国民のODAに対する  
理解を勝ち取る

# ODA予算の増額

提案者：池田晶子

農業農村NGO協議会  
(NPO)21世紀協会